

平成25年度アマノリ養殖概況

牧野賢治・棚田教生

育苗期（10月下旬～11月中旬）における鳴門庁舎汲み上げ海水温はやや低めに推移した。台風の影響によりアマノリ漁場全域の塩分濃度が30psu以下であったため、育苗作業が平年に比べて約2週間遅れた。一方、DIN濃度は、平年を上回る数値であったが、11月中旬に珪藻*Chaetoceros*属が発生し、県南漁場では、DIN濃度が0に近かった。11月下旬には、降雨によりDIN濃度が平年並みに回復した。

12月上旬から本養殖生産が始まった。例年より作業が遅れたため、第一回の共販が中止となった。鳴門庁舎汲み上げ海水温は11月～1月上旬にかけて平年値を0.3～1.5 下回、その後、2月中旬までは平年並みから0.8 高めに推移し、それ以降は平年並みから0.4 低い値で推移した。DIN濃度は、1月下旬に珪藻*Skeletonema*属、*Chaetoceros*属が発生し、県南漁場では2 µg-at/L以下の数値を示し、ノリの色落ちが発生した。2月中旬にはDIN濃度が3 µg-at/L以上となり、ノリの色調が回復した。しかし、2月下旬には珪藻*Skeletonema*属が発生し、DIN濃度は色落ちの目安となる濃度（3 µg-at/L）を下回り、3月中旬には*Eucampia*属が

発生し、吉野川周辺海域以外は1 µg-at/L以下となり県南漁場を中心にノリの色落ちが発生した。特に県南部における色落ちがひどく最終の第9回の共販に出荷できなかった。

平成24、25年度の徳島県漁連共販数量の経月変化を図1に、年度別に共販数量と平均単価の推移を図2に示した。養殖開始時期の遅れにより共販枚数は、12月が前年比61%、1月が同82%、2月が前年比81%であった。3月が同172%となり吉野川周辺海域の漁場において、昨年規模の色落ちがなかったことが要因と考えられる。4月は同113%であった（図1）。

平成25年度漁期の共販枚数は103,628千枚で、前年比98.2%であったが、平均単価は、他産地の色落ちによる品質低下の影響から7,71円（前年比112.6%）であった（図2）。

水産研究課は、徳島県ノリ研究会に協力し、11月24日に阿南中央漁協で健苗度調査を実施した。

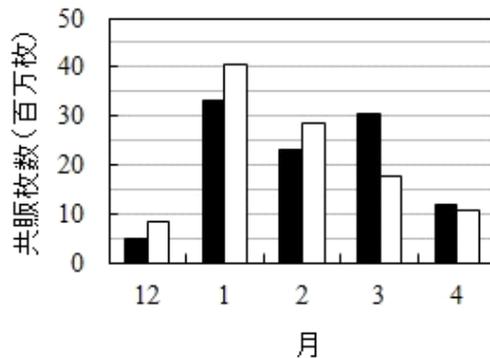


図1. 共販枚数の経月変化。 黒色：平成24年度； 白色：平成25年度

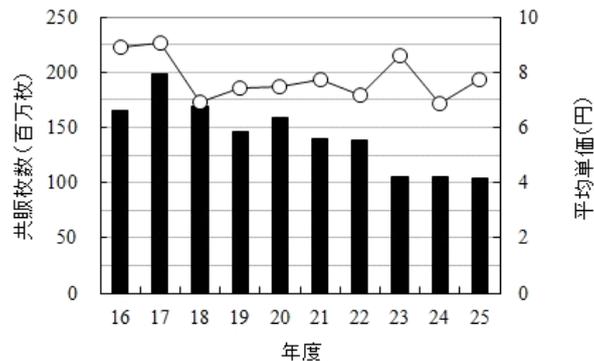


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。 黒色：共販枚数、 白色：平均単価